

第9回 「圧勝」の真実 —2011都知事選挙

この欄では、各号の特集に関する資料や多摩地域の基礎資料を掲げて、その解説を行います。ご意見またはご希望がありましたら、お知らせください。

東京都知事選挙の結果をマスメディアは、「石原圧勝」を伝えました。次の表Aが示すように、1位・2位の票差は大きく、このかぎりでは「圧勝」という表現は誇張でないといつて良いでしょう。

表A 主な候補者別に見た得票状況

候補者別	得票数	得票率 %
投票総数	6072604	100.0
石原慎太郎	2615120	43.1
東国原英夫	1690669	27.8
渡辺美樹	1013132	16.7
小池 晃	623913	10.3

東京都選挙管理委員会資料により作成。以下同じ。

ところが前回(2007年)の選挙と比べると、「石原圧勝」とばかりいえない実態が浮かび上がってきます。

そこでこの欄では、多摩地域30市町村・23特別区の自治体別のデータを使ってその動きを見ることにしました。右頁に掲げた表1は、今回と前回の選挙における石原候補の得票率を、自治体別に比較したものです。(表の解説の前に確認しておく、今回の投票率は、前回の54.35%を上回って、57.80%を記録しました。)

◆全自治体で「石原候補」の得票率が落ちた

まず東京都計で、石原候補の得票率が50.5%から43.1%に7.4ポイント下落しました。今回は、2分の1をかなり下回る支持しか得られなかったのです。

それを自治体別に見ると、多摩地域・都区別区とも全自治体で得票率を下げたことが分ります。しかもその落ち方は、最小で5.0ポイント、最大で11.1ポイントという大きさです。つまり「石原離れ」は、全体的な傾向だったということです。

◆23特別区でも大きな変化が起きていた

そのことをさらに端的に示すのが、表Bです。これは得票率を5段階に分け、前回と今回の選挙で石原候補の得票率が自治体単位でどう動いたかを見たものです。

①多摩地域では、07年選挙で25の自治体が45%以上の得票率で、うち9自治体は50%を超え、さらに3自治体は55%以上の得票率であった。

②これに対して11年選挙では、55%以上はゼロ、27の自治体が45%未満になり、そのうち6自治体は40%に満たない得票率であった。

③23特別区では、07年選挙ですべてが45%以上の得票率を記録し、17自治体が50%以上、うち4自治体が55%

表B 得票率段階別に見た自治体数

団体別選挙別	総数	得票率段階別 %				
		40未満	40~45	45~50	50~55	55以上
多摩地域	07 30	—	5	16	6	3
	11 30	6	21	1	2	—
特別区	07 23	—	—	6	13	4
	11 23	—	13	10	—	—

%以上であり、石原候補の圧倒的強さを見せた。

④ところが11年選挙では、得票率50%以上の自治体はゼロになり、13自治体が45%未満になった。

このように、2007年から2011年の4年間に、都民の石原知事への評価は大きく変化しており、特に23特別区における変化には目をみはるものがあったといつて良いでしょう。

◆多摩地域では27自治体が都計率を下回る

とはいうものの、石原当選には、23特別区の支持率が大きくものを言いました。右頁の表1から、石原候補の都全体における得票率(都計率)に対する各自治体の得票率の比較(△・▽、表1脚注を参照)別に自治体を分けると、表Cが得られます。

表C 都計率に対する得票率の比較で見た自治体数

地域別	総数	△	▽
多摩地域	30	3	27
特別区	23	16	7

このように、多摩地域では30自治体のうち、圧倒的多数の27自治体が都計率(43.1%)を下回る得票率でしたが、特別区では23区のうち16区が都計率を上回り、石原当選を支えました。

以上、今回の都知事選挙の結果を基礎自治体の位置から見る上で必要な資料を提供、解説しました。

さいごに、石原知事が登場した1999年の選挙からの得票・得票率の変化を掲げておきます。

表D 石原候補の得票数・得票率の変化

	1999	2003	2007	2011
得票数	1664558	3087190	2811486	2615120
得票率	30.2%	70.2%	50.5%	43.1%

<多摩研・研究員室>

表1 東京都知事選挙における石原慎太郎候補の得票率の比較<2011年・2007年>

自治体別	30市町村				23特別区				
	11得票率 %	07得票率 %	A-B	11都計率との比較	自治体別	11得票率 %	07得票率 %	A-B	11都計率との比較
	A	B				A	B		
東京都計	43.1	50.5	-7.4	—					
八王子市	40.3	48.0	-7.7	▽	千代田区	49.9	55.0	-5.1	△
立川市	41.6	51.1	-9.5	▽	中央区	45.0	53.7	-8.7	△
武蔵野市◎	39.3	44.2	-4.9	▽	港区	48.3	54.3	-6.0	△
三鷹市◎	39.2	45.2	-6.0	▽	新宿区	45.4	51.5	-6.1	△
青梅市	40.7	50.6	-9.9	▽	文京区	43.0	48.0	-5.0	▽
府中市	41.3	49.6	-8.3	▽	台東区	45.9	55.2	-9.3	△
昭島市	41.9	49.9	-8.0	▽	墨田区	46.0	56.8	-10.8	△
調布市	40.7	48.4	-7.7	▽	江東区	46.3	54.9	-8.6	△
町田市	41.6	48.2	-6.6	▽	品川区	43.8	51.8	-8.0	△
小金井市	40.3	45.0	-4.7	▽	目黒区	43.9	50.4	-6.5	△
小平市	40.9	47.1	-6.2	▽	大田区	44.2	53.3	-9.1	△
日野市◎	39.7	47.1	-7.4	▽	世田谷区	42.8	48.6	-5.8	▽
東村山市	40.4	47.2	-6.8	▽	渋谷区	44.4	50.8	-6.4	△
国分寺市◎	39.7	44.9	-5.2	▽	中野区	42.3	49.4	-7.1	▽
国立市	40.4	44.9	-4.5	▽	杉並区	41.4	47.2	-5.8	▽
福生市	42.9	53.3	-10.4	▽	豊島区	42.9	50.6	-7.7	▽
狛江市	41.5	47.9	-6.4	▽	北区	43.7	51.2	-7.5	△
東大和市	40.5	48.5	-8.0	▽	荒川区	45.5	54.7	-9.2	△
清瀬市◎	38.5	43.5	-5.0	▽	板橋区	42.5	49.4	-6.9	▽
東久留米市	41.1	46.8	-5.7	▽	練馬区	42.8	49.9	-7.1	▽
武蔵村山市	40.9	52.0	-11.1	▽	足立区	44.7	53.6	-8.9	△
多摩市◎	39.9	44.9	-5.0	▽	葛飾区	45.2	53.9	-8.7	△
稲城市	40.5	48.4	-7.9	▽	江戸川区	45.7	55.8	-10.1	△
羽村市	41.3	49.4	-8.1	▽					
あきる野市	42.3	51.8	-9.5	▽					
西東京市	41.0	46.6	-5.6	▽					
瑞穂町	42.5	53.3	-10.8	▽					
日の出町	47.9	56.5	-8.6	△					
檜原村	53.9	67.4	-13.5	△					
奥多摩町	54.9	63.9	-9.0	△					

東京都選挙管理委員会・候補者別確定得票の資料によって作成した。

①「東京都計」には、島部(9町村)を含めている。

②得票率の端数は四捨五入処理した。

③30市町村の自治体名に◎があるのは、得票率30%台の自治体である。

④「A-B」は、2011年選挙の得票率から2007年の得票率を差し引いた数値である。

⑤「11都計率との比較」とは、2011年選挙における東京都全体での得票率(都計率)と各自治体の得票率を比較したもので、都計率より高い団体を△、低い団体を▽で示した。